

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170500821		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	アン・ベルアミー グループホーム ローザンヌ		
所在地	札幌市南区川沿1条1丁目2-30		
自己評価作成日	平成30年7月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0170500821-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年5月1日に開設、7階建ての高齢者専用住宅の建物の3階にある2ユニットのグループホームです。東側には真駒内公園が広がり、西側には藻岩山を望むというロケーションのホームです。近くにはスポーツジム・大型スーパー・病院・専門学校と活気あふれる地域です。同じ建物の中にある高齢者専用住宅にご夫婦で入居され、その後おひとりが認知症になってグループホームに入居される方もいます。同じ建物でいつも面会ができ、高齢者住宅とグループホームを行き来しながら家族の絆を大切にできるというメリットもあります。また、高齢者専用住宅の方々がボランティアとして定期的に来訪して下さる等交流もしています。
藻岩山を眺めながら散歩をして頂いたり、徒歩で行く事が出来る近隣の大型スーパーに出かけ買い物や外食を楽しんで頂いたりしています。病院も近くに多くあり、安心して生活して頂ける環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アン・ベルアミー グループホームはバス停から3分程に位置し、周辺は医療機関や商業施設等があり利便性に優れている。高齢者住宅が併設され、3階部分が2ユニットの居住空間になっている。居室からは自然豊かな山脈が眺望でき、また、リビングから見える花火大会は家族も交えて見物している。外出行事として地域の道立公園散策後に、レストランで食事をするなど気分転換に繋げている。参加できなかった利用者には、特別食として出前寿司を用意するなど、きめ細やかな対応が日常的に行われている。利用者は、ドックセラピーや音楽教室で癒やされ、さらに趣味の手芸や鉢物の世話、地域のボランティアによる活花教室の参加、家事など持てる力を発揮している。運営法人による研修等のバックアップ体制の下、職員は落ち着きある姿勢で、基本理念である「いのち輝いて『今』を幸せに」を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示し、入居者様一人ひとりの意思及び人格を尊重し、心豊かに日々を送る事が出来るよう、日々の申し送り時やカンファレンス時に再確認しています。	系列グループホームの基本理念を共有し、さらにユニット毎に地域の中で充実感ある生活への支援を掲げた理念を策定している。職員にとって理念は、原点に立ち返るケアの指針となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高齢者専用住宅の入居者様が「コーラス・愉快なおしゃべり等」のボランティアとして定期的に来てくださり、交流しています。また、運営推進会議では地域の方が毎回参加して下さり、意見交流をしています。	町内会への加入は実現していないが、運営推進会議では出席が得られている。介護相談や看護学校実習生、中学校の体験学習、地域ボランティアを受け入れている。神社祭の子供神輿披露があり、菓子を用意して出迎えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方、高齢者専用住宅に住んでいる方々に理解や支援の方法を深めていくように努めています。また、中村記念病院附属看護学校からの実習生の受け入れを行い、同じように理解を深めて頂けるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っています。日常生活の様子、行事、事故報告を行い、地域の代表者、地域包括支援センター職員、ご家族、入居者様、高齢者住宅の職員に参加して頂き、意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。また、議事録は欠席されたご家族にも送付しています。	会議は定期的に行われ、町内会役員からは非常事態災害発生時の対応等について説明があるなど、地域を含めた防災対策の足がかりとなっている。利用者など他のメンバーからも意見や情報が得られ、運営やケアの向上に活かしている	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は札幌市の定例報告(年3回)に出席し報告を受け、南区の連絡会議(年3回)にも出席し他事業所の方々との交流や情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めています。	行政とは主に運営法人が関わっており、得られた意見や情報を共有し運営に反映している。市や区の研修会や勉強会等の行事には管理者が出席し、内容は職員に周知している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、研修にも参加し、職員は入居者様の意思を尊重し尊厳を持って接する事を常に心掛けています。特に声掛けには注意し、カンファレンス等で確認しています。今年度から「身体拘束等適正化委員会」が発足し年4回の研修が予定されています。	身体拘束廃止に向けて、マニュアルや指針の整備、身体拘束等適正化委員会の設置、法人や内・外の研修会に参加し、職員の共通理解を図っている。会議等で適切なケアであるかの確認を行うなど、注意喚起を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人独自の年間研修計画の中で全員が研修を受けられるようにしています。職員は自己研磨と専門性の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修・外部研修で学び、活用できるよう努めています。現在対象者はいませんが、対象者があった場合は支援体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明させて頂き、入居者様やご家族の不安や疑問点をお聞きして理解して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、入居者様、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、ご家族来訪時は生活状況を伝え、ご意見、ご希望を聞き日常のケアに反映させています。また、年に1回、ご家族アンケートを行い、ケアに反映させています。	家族には、毎月のユニット便りや2か月毎の運営推進会議議事録の送付、来訪時等で利用者の日常を報告している。法人企画の家族アンケートや関わりから意見や要望を把握し、速やかに解決策を講じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで、職員が意見や提案を出し皆で話し合い反映しています。また、年2回の人事考課時に自己申告書に意見を書く機会があり、その後面談も行い要望を聞く機会をを設けています。	法人職員は、運営推進会議等の来訪時に職員の全体像を把握している。管理者は、業務上や個別面談等で職員の意見や要望を傾聴している。夜間専門職員の導入など職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己申告書で個々の努力等を述べる機会があり、面談も併せて行います。資格取得後は資格手当が支給され、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス研修委員会があり、内部研修の年間計画を立て、職員が自主的に参加出来るようにしています。また、研修内容が不参加職員にも共有できるように資料を回覧しています。外部研修の情報も回覧し、自由に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市、区の連絡会や親睦会に参加し、交流をする機会があります。職員は、法人内の委員会活動や、グループホーム全体の親睦会で交流を持ち、外部研修を通じても交流の機会があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	ご家族から情報を頂いたり、ご本人に会ってお話しする機会を作らせて頂く中でご本人の不安や気持ちを受け止められるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とお話させて頂く機会を多く作り、これまでのご苦勞、困っている事、不安に思っていること等を話しやすい雰囲気話せるように心がけ、信頼関係が築けるように、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が困っている事、不安、要望をよく聞いて、まず必要な支援を見極め、ご本人、ご家族の心情に沿えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で人生を歩んでこられ、得た知識を教えて頂く事が多く、残された知識、力を大切にし、自信を持って心身の活性化に繋げて行けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時に日々の様子をお伝え、変化のある時は連絡をさせて頂く等、常に情報交換をさせて頂く事で、共にご本人の生活を支えになれるように努めています。ご家族も参加し、お手伝いして頂いたりする行事も計画、実施しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、友人、知人の来訪時にはゆっくり居室で過ごして頂いています。電話も取次ぎ、居室でゆっくり話して頂いています。	家族や知人の来訪が多く、飲み物を居室に運ぶなど寛げる環境作りに努めている。利用者の要望で、馴染みのデパートや商業施設で食事や買い物などの個別支援を行っており、社会的繋がりを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイム・体操・レク活動を通じて、皆様で楽しい時間を過ごしたり、お手伝い等で協力し合う場面が持てるように支援しています。また、会話ができるように、職員が間に入ったり、椅子の配置等にも配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療施設に入院されてもお見舞いに行く等、馴染みの関係を継続する様に努めています。また、退去後もサービスが途切れないよう各関係機関との連携を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報に加え、ご本人の生活歴や、職員が日々の生活の関りの中で、ご本人の行動・言動・表情等から思いを汲み取り、その方らしく生活して頂けるようにしています。	職員は、家族からの情報を基に洞察力を高め、利用者の望む生活支援に取り組んでいる。状況によってはケアプランに反映するなど、利用者の充実感に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報収集に努め、入居時にこれまでのサービス利用についてケアマネージャー等から、情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自室で過ごされる方、リビングで過ごされる方等、心身・身体状態を把握し、その方らしい生活ができるように、支援していきます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスを行い、職員間で意見やアイデアを出し合い、また、ご本人、ご家族様の要望を聞き、医師、看護師等の意見、アドバイスを受ける事で、ご本人がより良く暮らす事が出来るようにし、それに沿って介護計画を作成しています。	ケアプランは、利用者や家族の要望を前提に医療関係者の所見を踏まえ、全職員で検討している。定期見直しや急変時には、新たにプランを作成し、介護記録に目標の実践を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの気づきや工夫の実践を、毎日の申し送りや個別記録で情報共有し、日々のケアの実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の代行、買い物の代行など柔軟な支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大型スーパーに入居者様と買い物に行ったり、レストランに食事行ったりして豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックあいの訪問診察を月2回受けられています。必要に応じて、皮膚科、歯科、眼科の受診をご家族と協力しながら対応しています。訪問看護ステーションと連携し、緊急時や24時間いつでも相談できる体制が整っています。	受診先は利用者や家族の意向を尊重しているが、殆どの利用者は、協力医の月2回の訪問、皮膚科、歯科の都度の訪問診療を受けており、さらに週1回の訪問看護により健康管理が図られている。他科受診は、家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問で入居者様の健康状態の報告、相談をし、アドバイスを受けています。24時間体制で対応し、医師と連絡も取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	医療機関の相談員と連携しながら、ご家族からの情報やご本人との面会を行い、早期退院に向け話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて説明を行い、ご本人、ご家族の意向を把握し、出来る限りの支援をご家族の協力を得ながら、その方策・方針を共有できるように努めています。	契約時に重度化や看取りに向けた指針を説明し、同意を得ている。状態変化時は再度確認を行い、医療関係者も交え方針を共有し、看取り支援の開始としている。職員は看取りを経験しているが、研修会等でさらなる知識や技術の向上に努めている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の緊急時のマニュアル等の熟読と内外の実践研修等で、身に付けています。ホームにAEDを設置しており、消防職員による研修を、職員全員が受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は同じ建物である高齢者専用住宅と一緒に年2回行い、職員が全員受ける様にしています。また、運営推進会議等で地域の方から災害時の避難場所や避難のポイント等の情報を得ています。又、大規模災害に備えて、法人でマニュアルを作っています。	元消防署員の法人職員による指導を受け、併設の施設と合同で年2回、夜間を含む避難訓練を実施している。自然災害対策は、法人や系列事業所との協力体制を整えているが、災害時備蓄品等は事業所でも備えている。	町内会未加入で、周辺には住宅が無く住民参加の訓練は困難だが、運営推進会議には町内会役員の出席があり、地域の防災関連の情報を得られている。引き続き町内会加入と訓練参加要請に取り組む意向なので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等は場所、声の大きさを考え、プライバシーを損ねない様にしています。日々の声かけやケアも人生の先輩に対する尊敬の念を持ってケアに努めています。	職員は、法人研修や勉強会等で接遇について学び、日々のケアに活かしている。脱衣室のドアにはカーテンを設置しており、入浴時でのプライバシーに配慮があるなど、適切なケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態を把握しながら、希望が言えたり、自己決定できる場面を作っています。又、一緒に考えたりサインを見逃さないよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、レクリエーション等一人ひとりのペース、体調、思いに沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気候に合わせて、その方らしい装いができるように声掛けや、アドバイスをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しみになるように好みや食べやすい工夫したり、準備や後片付けを入居者様と職員とで一緒に行っています。ティータイムには、一人ひとりお好みの飲み物を提供しています。	メニューに沿って、3食手作りの食事作業を利用者で行っている。週1回、ユニット別の自主メニューは、買い物を含め利用者主体になっており、利用者の育てているパズルを活用したピザやお好み焼きなどが食卓に上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューであり、一人ひとりの持病や状態に応じて食事量や食事形体に配慮しています。水分量をチェックし、一日を通じて確保出来るように、支援していきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは義歯を外した状態で行い、舌の状態も観察洗浄しています。ご自分で歯磨きが難しい方は、声掛けお手伝いをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を考慮したトイレのお誘いや、排便コントロール(下剤調整)等を行い、トイレで排泄が出来るように支援しています。又、排泄の状況を把握し、布パンツにすることも考えています。	トイレや洗面台は車椅子対応も設置しており、自立への配慮がある。トイレでの排泄を基本としている職員の支援により、布下着の着用が可能になった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況の把握と、運動や十分な水分量、飲み物の工夫をし予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様がリラックスして楽しめるよう一人ひとりの思いや希望に沿って午前、午後を問わず支援しています。	毎日入浴日を設けているが、回数や時間帯、2人入浴、同性介助等の要望を受け止め、週2回を目途に、利用者は入浴剤入りの浴槽に浸かっている。入浴はゆっくり出来る貴重な時間であり、本音や思いが聞かれケアプランに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが崩れないよう配慮し、生活習慣や体調、本人の希望に応じて、照明、室内温度等、安心して休める環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についての知識を深め、変更があった場合は申し送りで職員全員が把握し、症状の変化に注意し服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや喜びを把握し、毎日の暮らしの中に生活歴を生かした役割を見出せるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩や大型スーパーに買い物に行ったり、個別レクをご本人の希望に沿って計画は行っています。花見、紅葉狩りなど中型バスで外出バスツアーで出かけたりもします。ご家族様の協力を得て、外出の機会を持っています。	周辺の散歩や下の階に降り花壇を眺めたり、近くのスーパーで買い物を楽しんだりと日常的に外気に触れている。家族の外出支援や、外出行事の一つとして近隣の道立公園散策後に食事をするなど気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の大型スーパーでご自分の好きな洋服を選んだり、食べたい物やお花を選んで購入したりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも利用して頂いています。又、ご親戚からの電話を取り次ぎ、居室でゆっくりお話しして頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度はその都度調節し、光はカーテンの開け閉めで調節、テレビや音楽の音量は皆さんで相談しながら調節します。リビングには、季節の草花を飾り、雛祭り、夏祭り、クリスマス等々の行事に合わせての飾りつけをして、入居者様が季節を感じて頂けるように、空間作りに努めています。	事業所全体がゆったりとした構造になっている。壁紙はじめ装飾品や調度品は格調高い設えになっており、優雅な雰囲気を出している。温湿度など生活環境にも配慮があり、利用者は、季節毎の行事や窓から見える自然豊かな風景で季節感を味わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルやソファがあり、それぞれにくつろいで過ごして頂いています。又、廊下などリビング以外にもくつろげるスペースを作り利用して頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味で作られた花、ご自分で書かれた絵画、大好きなぬいぐるみ、家族の写真等々を置いて、ご本人が居心地よく過ごして頂けるよう配慮しています。	クローゼットに生活用品が納められている。居室には、整理筆筒やソファ、テレビ等が置かれ、鉢物の生長や手芸を楽しんだり、活花教室での作品を飾るなど、安心感ある居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	得意な事や残された力を生かしていけるように、廊下やトイレ、お風呂には、手摺りを設置し、一人での移動が安全に出来るよう配慮しています。又、リビングや居室の同線も安全で自立した生活出来る様に配慮しています。		